

平成19年度気候講演会(名古屋)の開催について

気象庁は、地球環境問題に関する最新の科学的知見やその対策などについての知識を深めて頂くために、「気候講演会」を平成元年から毎年、日本各地で開催しており、今回は愛知県名古屋市で開催します。

本講演会では、IPCC（気候変動に関する政府間パネル）第4次評価報告書の内容を中心とした地球温暖化の現状や将来予測について東海地方の話題を交えて紹介するほか、地球温暖化により縮小している氷河とその変化に伴う影響、地球温暖化防止に向けた取り組みなどについて広く紹介します。

記

- 1 期日：平成20年2月3日（日）13時～15時30分（12時30分開場）
- 2 場所：中電ホール（名古屋市東区東新町1番地）
- 3 実施体制：
主催：気象庁、（財）日本気象協会、（財）気象業務支援センター
後援：東海農政局、中部地方整備局、中部運輸局、中部地方環境事務所、
愛知県、名古屋市、愛知県地球温暖化防止活動推進センター、（社）日本気象学会
- 4 実施内容
タイトル：「知ろう わかろう 地球温暖化 in 名古屋」
講演：
 - ・『ここまで分かってきたー地球温暖化と気候変動』
名古屋地方気象台 台長 湯田 憲一
 - ・『地球温暖化で氷河が融けるとどうなるの』
総合地球環境学研究所 教授 中尾 正義
 - ・『地球温暖化防止のため私たちにできること』
愛知県地球温暖化防止活動推進センター 事務局長 児玉 剛則
- 5 その他
定員：400名（事前申込制、応募多数の場合は抽選）、入場無料
応募方法等詳細につきましては、別紙のリーフレットをご覧ください。

入場無料

気候講演会

知ろうわかって

地球温暖化

in 名古屋

最近、テレビや新聞などで話題となっている地球温暖化…。

私たちの生活の中からも排出されている

二酸化炭素が原因といわれていますが、

どのような仕組みで地球温暖化が起きるのでしょうか？

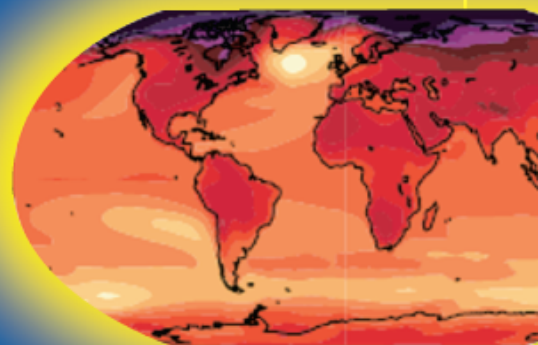
そして気候はどのように変化し、私たちの生活や生態系などに

どのような影響が出てくるのでしょうか？

地球温暖化について、最近公表された

IPCC(気候変動に関する政府間パネル)

報告書の内容や東海地方の気候変動の話題を中心にお伝えします。



平成20年

2/3 (日) 13:00 ~ 15:30

主催 気象庁、(財)日本気象協会、
(財)気象業務支援センター

後援 東海農政局、中部地方整備局、
中部運輸局、中部地方環境事務所、
愛知県、名古屋市、
愛知県地球温暖化防止活動推進センター、
(社)日本気象学会

会場：中電ホール (名古屋市東区東新町1 中電本店ビル)

定員：400名

対象：中学生以上

交通：地下鉄栄駅から東へ徒歩5分

講演

1 ここまで分かってきた —地球温暖化と気候変動—

名古屋地方気象台 台長 湯田 憲一

2 地球温暖化で氷河が融けると どうなるの

総合地球環境学研究所 教授 中尾 正義

3 地球温暖化防止のため 私たちにできること

愛知県地球温暖化防止活動推進センター 事務局長 児玉 剛則



応募方法

電話・FAX・ホームページのうち、いずれかの方法で、1月31日(木)までにお申し込みください。

●電話 名古屋地方気象台 防災業務課 TEL 052-751-5124 ※9:00~17:00(土・休日を除く)

●FAX 代表者氏名・入場希望者人数・電話番号をご記入の上、FAX 052-752-3357まで

●ホームページ 名古屋地方気象台 (<http://www.tokyo-jma.go.jp/home/nagoya/>) 気候講演会案内から申し込みフォームへお入りください。

本講演会のお問い合わせ先
(ホームページ)

名古屋地方気象台防災業務課 (<http://www.tokyo-jma.go.jp/home/nagoya/>)

気象庁地球環境・海洋部地球環境業務課 TEL 03-3212-8341 内線 4225 (<http://www.jma.go.jp/>)

1 ここまで分かってきた —地球温暖化と気候変動

名古屋地方気象台

台長 湯田 憲一



世界の科学者の英知を結集し、地球温暖化や気候変動の解明が進められています。温暖化の今後の推移や、予想される気候変動の地域ごとの特徴などが、かなりの確度をもって明らかになってきました。日本においてはすでに、異常高温の多発、大雨の出現頻度の増加などの傾向が現れており、今後さらに顕著になることも懸念されます。また、名古屋など大都市では、地球温暖化に都市化の影響（ヒートアイランド現象）が加わり、身近な気候は大きく変化しています。こうした最新の知見を国民の皆さん一人一人に理解していただくことが、「地球温暖化防止」を進めるうえで大きな力になると考えています。

2 地球温暖化で氷河が 融けるとどうなるの

総合地球環境学研究所

教授 中尾 正義



世界最大のユーラシア大陸。その中央部には広大な乾燥・半乾燥

地域が広がっています。古より、様々な文明が栄枯盛衰を繰り返してきた表舞台です。降水量が少ない同地域では、山に懸かる氷河からの融け水は、貴重な、そして重要な水資源でした。最近の地球温暖化によって世界中の氷河がどんどん小さくなってきています。とりわけ、モンスーンの影響を強く受けているアジアの氷河の衰退は際立っています。温暖化によって急速に氷河が縮小することによって、世界の海面が上昇することが危惧されています。しかしそのことに加えて、氷河の融け水に強く依存して暮らしているユーラシア中央域の人たちの暮らしは、大きく影響されるに違いありません。

3 地球温暖化防止のため 私たちにできること



家庭から排出される年間の二酸化炭素量はおよそ 5.5 トン、これは一人 1 日平均 6kg となるそうです。

生活スタイルの見直しで 1 日 1kg

を減らそうという国民運動の展開が始まっています。

例えば、部屋の温度を調節すると水道水の使用量を見直すとかが省エネに工夫した家電などを購入しましょうということです。他にも食べ物を地産地消にしてフードマイレージを少なくすることも提案されています。そこで、発想を転換して「何ができるか」というより「何が出来ないか」を考えるといろいろなアイデアが実行できます。一緒に発想転換しましょう。ただし、大きな課題があります。それは省エネダイエットを継続する工夫です。リバウンドしない持続する省エネ生活の工夫が大切です。

愛知県地球温暖化防止活動推進センター

事務局長 児玉 剛則



司会 宮村 その美

三重大学生物資源学部卒業。

東海地方や近畿地方のテレビ番組で気象キャスターを務めた経験をもつ。

平成 17 年 9 月に三重県内初の気象会社（有）メテオプラネットを立ちあげる。

（三重県の IT ベンチャーを育成する「ネットビジネス支援事業」に採択）

地球温暖化関連のシンポジウムの司会のほか、気象や防災に関する講演活動も行っている。